まちかどインタビュー

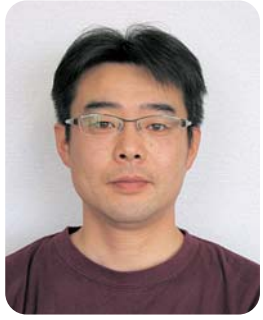
事業体制の確立を願いたい

～特別養護老人ホーム整備事業～

町では、高齢化社会の進展により、老老介護による家族介護機能の低下や施設入居待機者の増加が見込まれることから、このたび（仮称）社会福祉法人養高会（理事長　高野英男氏）による特別養護老人ホームの建設に対して、２億４６００万円の財政支援を決めました。

しかし、財政支援に当たっては、町が支援金の一部を借り入れることから、町民の後年度負担が増えるなど、多くの課題が残ります。

そこで今回は、民間が建設する特別養護老人ホームへの財政支援について、あなたのご意見をお聞かせください。



遠藤　浩さん
（折木・大平）

要介護高齢者の支援対策として、入居施設の建設は早急に対応すべき事業だと思います。

町独自に建設・運営ができれば1番良いのですが、それが困難であるならば、民間と連携して事業を推進することは、理解できる選択です。

町民の将来を思う時、子や孫の代まで自信をもって引き継ぐことのできる事業体制を確立していただきたいと願っています。

鈴木　江子さん
（下北迫・久保田）

お年寄りが多くなる時代ですから、町に1つぐらい特別養護老人ホームは必要だと思います。

まして今回のように、民間の特別養護老人ホームの建設を支援するのであれば、町で直接つくるよりも負担が軽くて済むわけですから、支援金を出すのは仕方ないと思います。

ただし、これだけのお金を出すからには、町民が最優先に入所できなければならないし、都会人や金持ちだけを入所させるようなことのないよう低所得者でも入れる施設にしていただけないでしょうか。

編集後記

議会は「議論の場」といわれており、議論のないところに進歩はないといわれています。

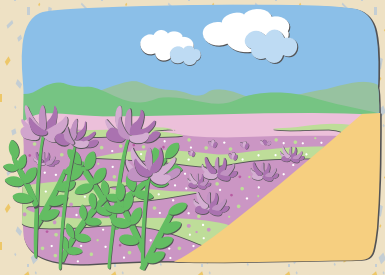
3月定例会では、それぞれの議員が、さまざまな角度から調査・研究し、町民の代表として活発な「議論」を展開しました。

こうした「議論」を通して、そこからさまざまな相乗効果が得られれば、必ずや町民生活の向上にもつながるものと確信しています。

今後とも、町民の皆様方からいただくご意見や疑問が、「大きな議論の源」となり、町づくりに活かされることを願ってやみません。

（中津）

発行・編集責任者
議　長　坂本紀一
広報委員会
委　員長　中津伸一
副委員長　渡邉正俊
委　員　鈴木紀昭
委　員　塩　史子
委　員　渡辺久長
委　員　鈴木正範
委　員　遠藤　智



次の定例会は6月です

●発行／福島県広野町議会　〒979-0402 福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35　●編集／広野町議会広報委員会　TEL0240-27-4165（議会事務局）

PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は資源保護のため再生紙とエコマーク認定大豆油インキを使用しています。